



平成23年度

「嵐山国有林の取扱に関する意見交換会」

第1回会合

日時:平成23年10月 3日(月) 10:00~

場所:大本山 天龍寺「友雲庵」

近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所

議 題

1. (1) 開催挨拶

(2) 嵐山モニタリングの最終報告(深町委員)

(3) 京都大阪森林管理事務所での取り組みについて

- ・平成23年度 治山事業実施予定
- ・ナラ枯れの発生状況及び対策予定
- ・中期的課題に対する取り組みについて

2. 意見交換

3. その他

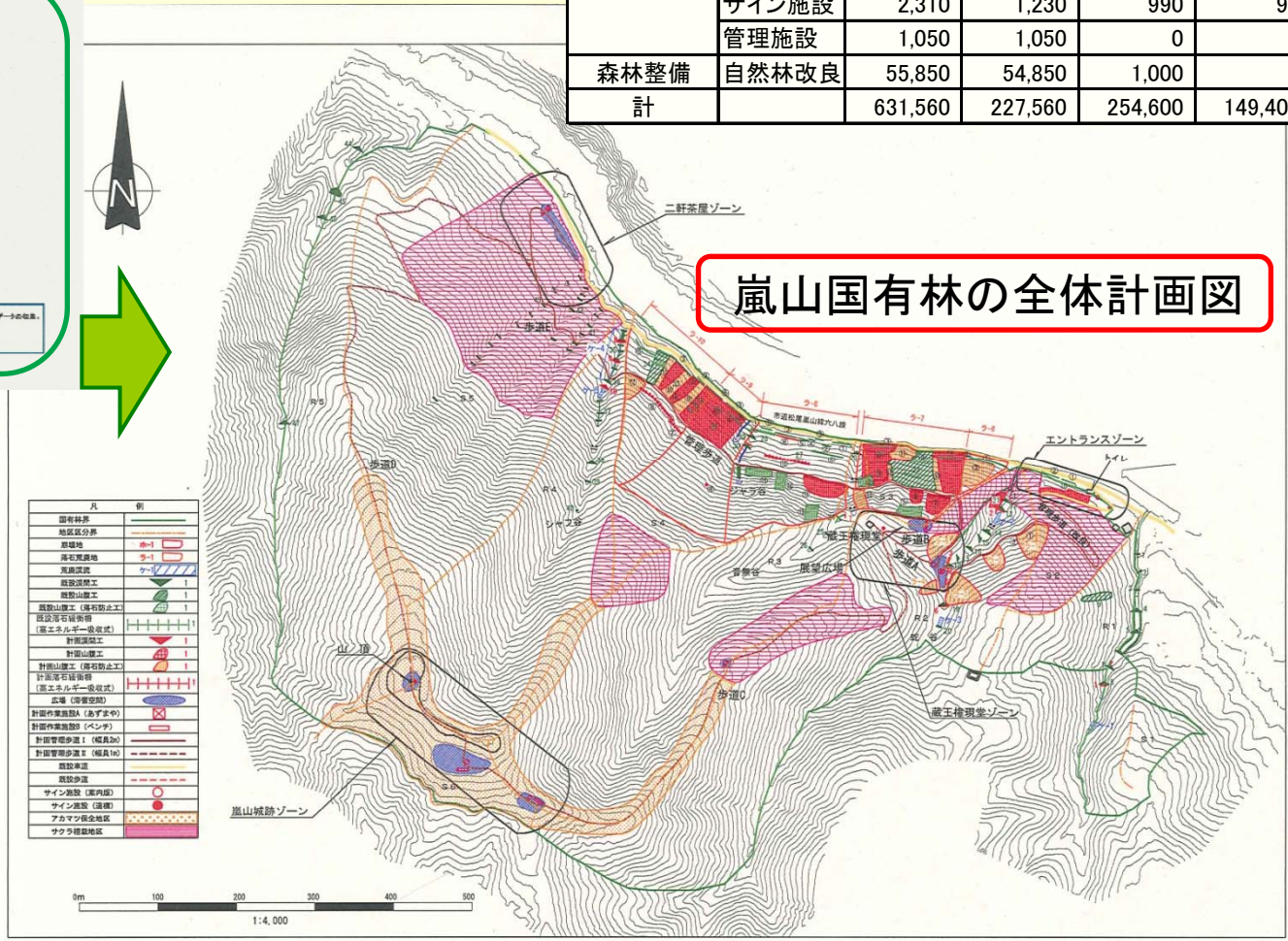
- ・第2回会合について【平成24年2月 日()】(案)

(3) 京都大阪森林管理事務所における取組について(報告・検討)

・平成23年度 治山事業実施予定

平成22年2月

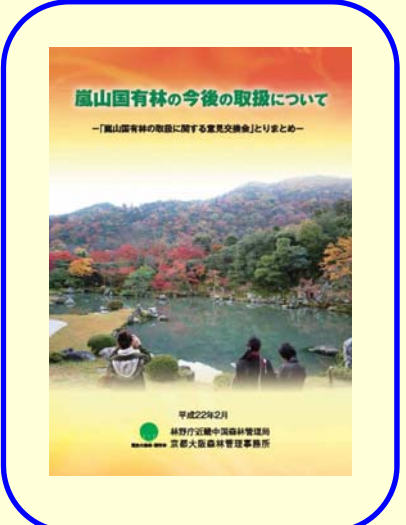
「嵐山国有林の今後の取扱方針」



嵐山国有林の全体計画図

全体計画総括表

区分	金額(千円)	優先度			
		1	2	3	
施設整備	溪間工	50,450	20,500	24,950	5,000
	山腹工	510,730	146,780	225,640	138,310
付帯施設整備	作業施設	320	200	120	0
	管理歩道	10,850	2,950	1,900	6,000
	サイン施設	2,310	1,230	990	90
	管理施設	1,050	1,050	0	0
森林整備	自然林改良	55,850	54,850	1,000	0
計		631,560	227,560	254,600	149,400



生活環境保全林整備事業

「嵐山治山全体計画」を治山事業体系(林野庁)における「生活環境保全林整備事業」へ位置付け

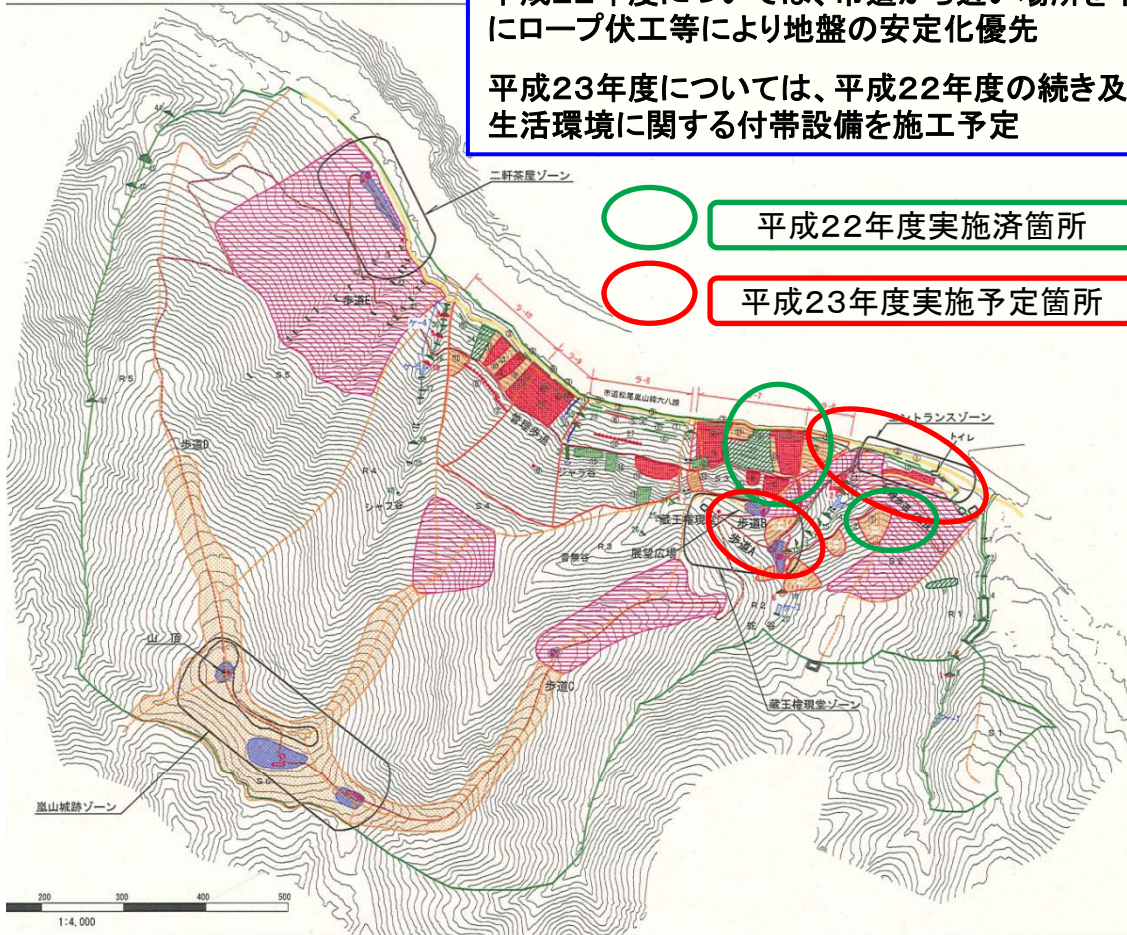
(生活環境保全林整備事業の概要)

生活環境を保全・形成するための森林の造成改良整備を治山工事(構造物等)と併せて実施

(国有林治山事業実施基準より)

平成22年度については、市道から近い場所を中心にロープ伏工等により地盤の安定化優先
 平成23年度については、平成22年度の続き及び、生活環境に関する付帯設備を施工予定

- ・全体計画における優先度において、1期計画を主体とした。
- ・事業の性格上、生活環境に関連する付帯施設整備を優先。

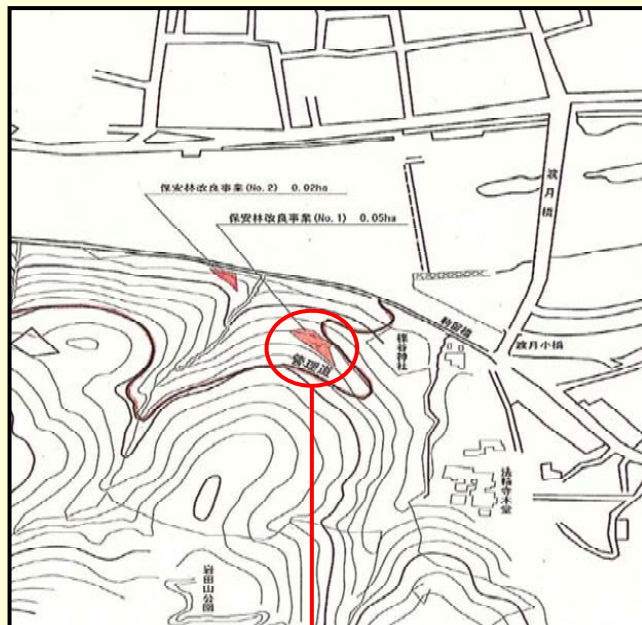


○ 平成22年度実施済箇所

○ 平成23年度実施予定箇所

嵐山国有林		全体計画量	千円	
大分類		工事費	22年度 工事費	23~28年度 工事費
山腹工	復旧	157,655	21,377	136,278
	予防			
	補修			
	落石防護柵 落石防止網			
溪間工	谷止工	21,750	-	136,278
	床固工			
	護岸工			
付帯施設工	落石防止階段工	13,470	-	136,278
	歩道整備工			
	小規模管理施設A			
	小規模管理施設B			
	案内板A 案内板B			
	植栽工	27,125	1,818	136,278
	林床受光伐			
	防護柵			
計		220,000	23,195	196,805

平成21年度治山事業実施箇所経過状況(生活環境保全林整備事業)



【平成23年度9月26日の状況】

防鹿柵の中については植栽木が生育及び下層植生が繁茂しており、それぞれの効果は現れているように思われる。

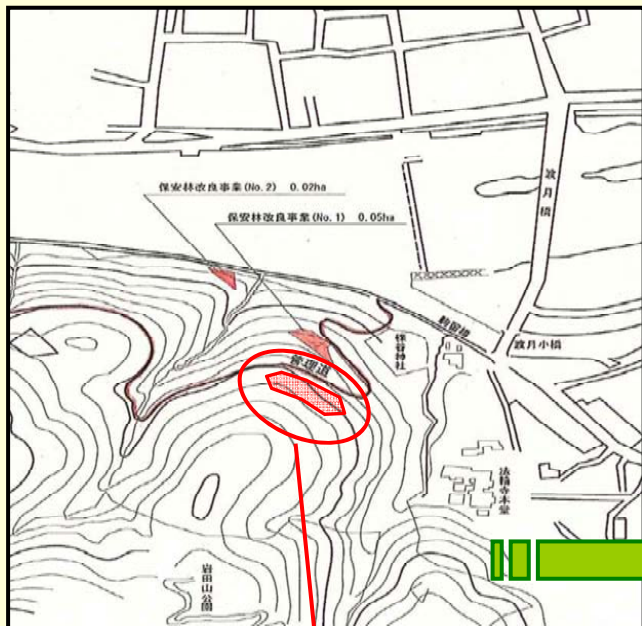
防鹿柵の外側については、裸地化されたままである。

- ・シカ等の獣害対策の防鹿柵
- ・表層土の流出調整のための木製筋工
- ・受光対策の伐採



【平成22年9月10日の状況】
植栽木の活着状況は、良好であった。

平成22年度治山事業実施箇所経過状況(生活環境保全林整備事業)



【平成23年度9月28日の状況】

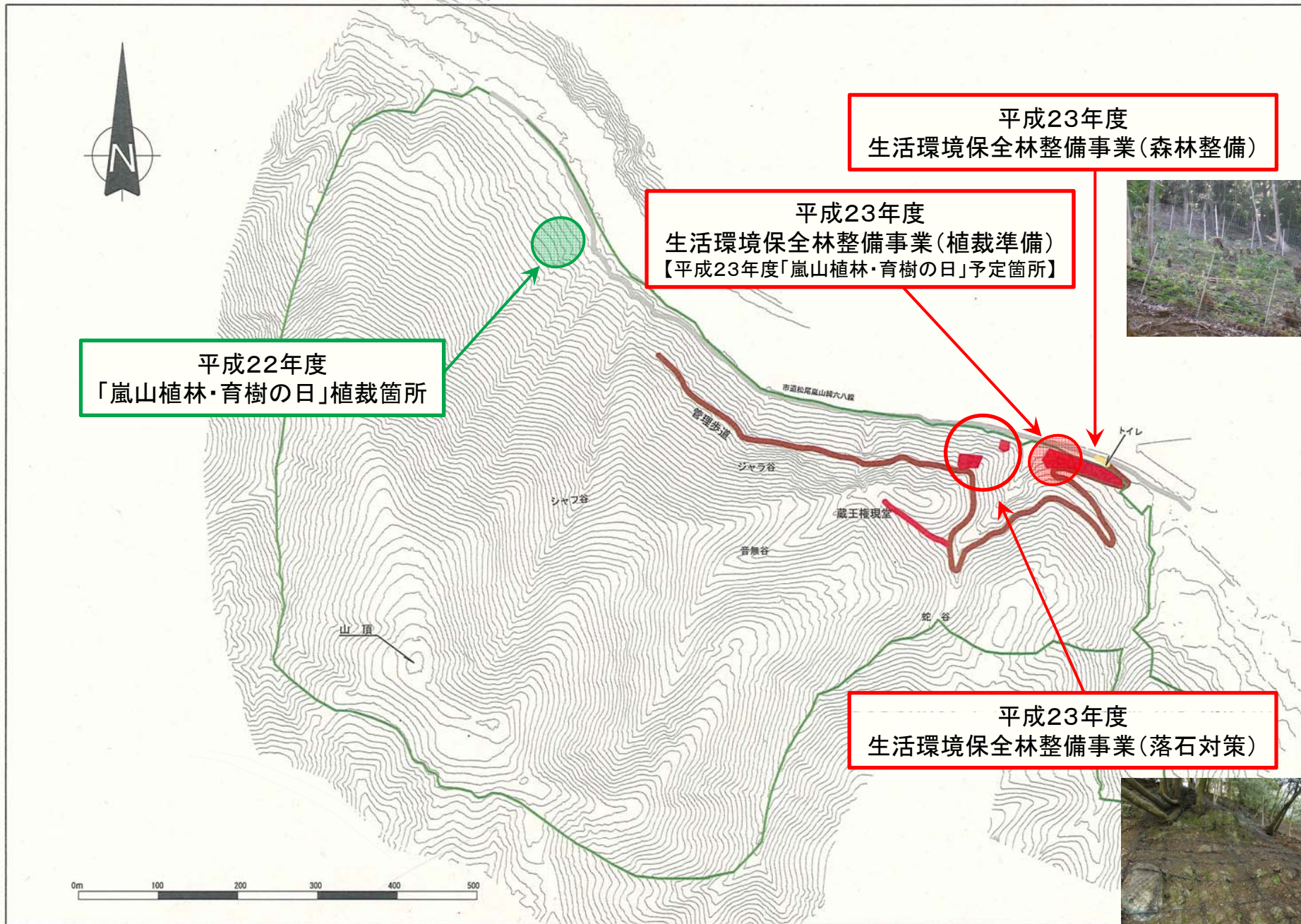


【平成23年9月28日の状況】
植栽木の活着状況は、良好であった。

防鹿柵の中については植栽木は生育、下層植生は柵の外よりは発生しているものの平成21年度箇所ほどの繁茂は見られなかった。

- ・シカ等の食害は認められない。
- ・下層植生の発生は少ないものの防鹿柵の外よりは発生を確認できた。

平成23年度 生活環境保全林整備事業



平成23年度 生活環境保全林整備事業(森林整備)

【エントランスゾーンの復旧を試みる】

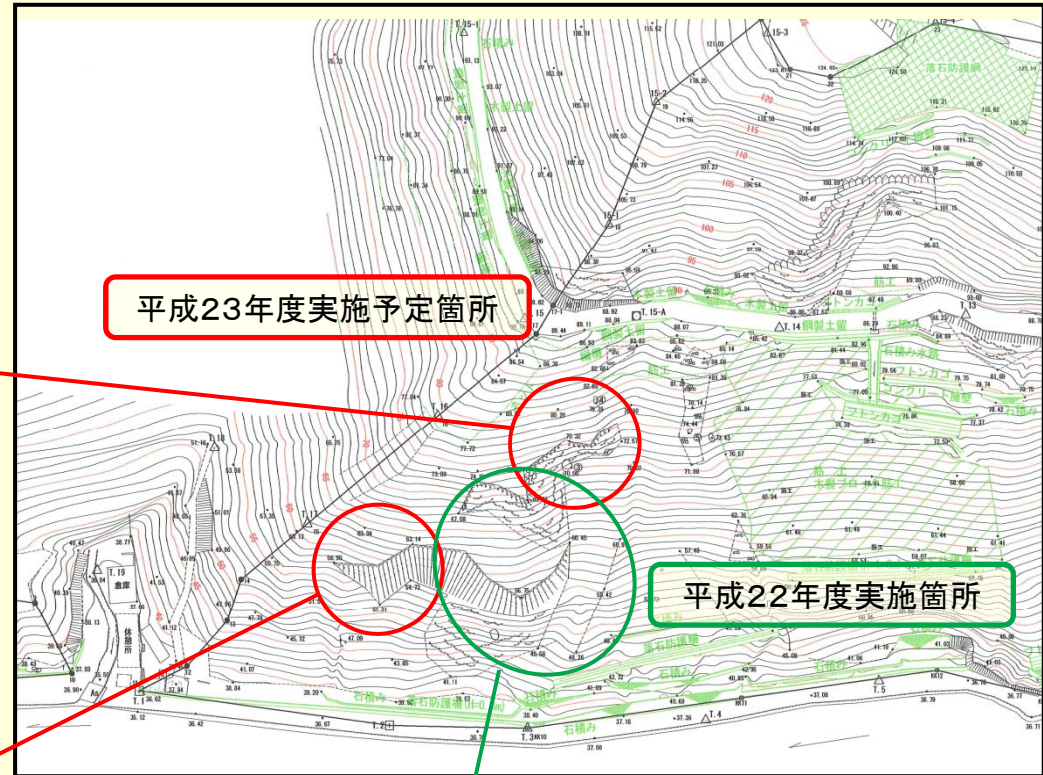
- ◎林床受光伐(1箇所あたり0.05ha以内とし2箇所を設定)
※ ただし、伐採区域間には20m以上の保護樹帯を設ける。
- ◎獣害防護柵(林床受光伐の2箇所を包括する区域に設置)
- ◎丸太筋工、木製ブロック筋工(獣害防護柵内の浸食箇所に配置)
- ◎植栽工(サクラ・モミジ・ケヤキ等を獣害防護柵内に配植)



平成23年度 生活環境保全林整備事業(落石対策)



広い範囲で露岩し、亀裂が発達しているため落石の危険性がある。



平成23年度実施予定箇所

平成22年度実施箇所



ロープネット工により、剥離を防止し、現地に固定する。

平成22年度実施箇所

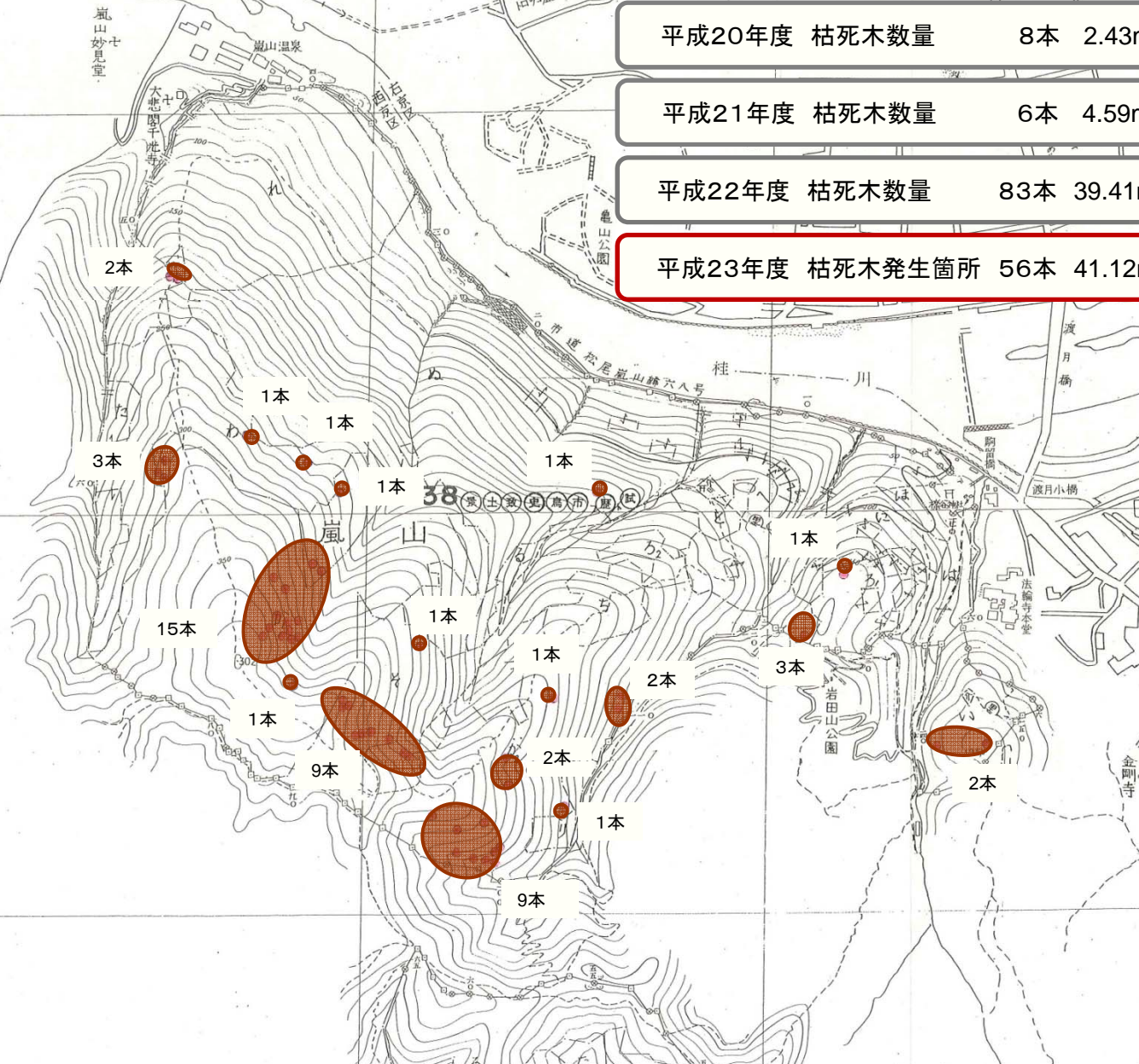
「ナラ枯れ」の発生状況及び対策予定

平成20年度 枯死木数量 8本 2.43m³

平成21年度 枯死木数量 6本 4.59m³

平成22年度 枯死木数量 83本 39.41m³

平成23年度 枯死木発生箇所 56本 41.12m³



①現在までの対応

- ・平成20年度に嵐山国有林で「ナラ枯れ」を確認して以降、20～22年度に枯死木 97本 (46.43m³)については、全て伐倒・くん蒸処理を実施している。
- ・穿入生存木(カシノナガキクイムシの穿入を受けているが枯れずに生き残っている木)については、カシノナガキクイムシの個体数低下に寄与すると考えられることから、基本的には伐倒処理を行わずに、現地に存置している。

②被害分析

- ・今年度の枯死木は、昨年度の83本から56本へと、わずかに減少している。
- ・被害発生当初は、山麓付近で単発的に発生していたが、昨年度以降、中腹から山頂付近へと被害が拡大している。
- ・枯死に至らないまでも、ほとんどのカシ、ナラ類はカシノナガキクイムシの穿入を受けている状況。
- ・枯死木の樹種割合は、コナラ84%、カシ7%、その他L9%。枯死木の多くは、胸高直径38cm以上の大径木である。

③国有林での今後の対策

- ・今年度発生した枯死木については、秋駆除で全木、伐倒・くん蒸処理を実施する。
- ・全木処理が望ましいと考えるが、処理予算等の兼ね合いもあることから、景観対策や危険木処理など、処理目的を絞った対応についても今後検討を要する。
- ・伐倒等の処理を実施した跡地については、保安林整備事業により植栽等を検討する。

中期的課題に対する取り組みについて

- (1) 景観保全に向けた落葉広葉樹等の植栽・管理
 - － 光環境を確保した上で、サクラ、カエデの植栽を継続
 - － 尾根筋でアカマツ林を保全
 - － 地元の協力により、苗木の生育状況を確認
- (2) 獣害からの植栽木の確実な保護と密度管理の実施に向けた条件整備
 - － 苗木植栽箇所は防鹿柵で確実に保護。
 - － 個体数管理の実施に向けてデータ収集。
 - － 森林環境教育等を通じて、シカ対策の重要性への理解を醸成。
- (3) 治山事業による荒廃防止と植栽基盤形成
 - － 落石防止、斜面崩壊防止のための治山事業を実施。
 - － 土壌の保全により、樹木の植栽基盤を形成。
 - － 林内の危険性を周知。
 - － 地元の協力による日常的な巡視。
- (4) 林内利用の促進に向けた条件整備
 - － 林内見学会等を積極的に開催。
 - － 蔵王権現堂への参拝コースを段階的に整備
(一般への開放は将来課題)。